

# 市内高等学校の今後の在り方に係る市民意見まとめ

市内高等学校の今後の在り方について検討するため、これまでに市民から聴取した主な意見をまとめた。 ※重複する意見は、1つにまとめている。

- ① 市内高等学校在り方検討会
  - 令和5年 8月 7日 第1回全体会
  - 令和5年 9月26日 第2回全体会
  - 令和5年10月23日 第3分科会
  - 令和5年10月30日 第2分科会
  - 令和5年10月31日 第1分科会
  - 令和5年11月20日 第3分科会
  - 令和5年11月28日 第2分科会
  - 令和5年11月30日 第1分科会
  - 令和5年12月26日 第3回全体会
- ② 3高校の未来を考える会（タウンミーティング）
  - 令和6年2月 6日 西紀中学校区
  - 令和6年2月 8日 丹南中学校区
  - 令和6年2月14日 今田中学校区
  - 令和6年2月16日 篠山東中学校区
  - 令和6年2月23日 篠山中学校区
- ③ 丹波篠山市PTA協議会新旧会長懇談会  
令和6年3月16日
- ④ ふるさと一番会議（市内20箇所）  
令和6年5月8日～6月22日
- ⑤ 市内中学校PTA懇談会
  - 令和6年6月26日 篠山中学校
  - 令和6年7月 9日 丹南中学校
  - 令和6年7月10日 篠山東中学校
  - 令和6年7月20日 西紀中学校
  - 令和6年8月 5日 今田中学校
- ⑥ 丹波篠山市PTA協議会理事会  
令和6年7月29日
- ⑦ ふるさと一番会議参加者・市内中学校PTA懇談会参加者へのアンケート自由記述欄  
令和6年8月19日～9月10日
- ⑧ 3高校の未来を考える保護者アンケート（保幼こ小中特）自由記述欄  
令和6年9月20日～10月10日
- ⑨ 市内高校の将来の在り方に係る関係者ヒアリング  
令和6年10月

## 1 学力について

### (1) 進学実績や偏差値で進学先が選ばれやすい。

- ・ 高校を選択する指標として偏差値を気にしている。
- ・ どこの高校へ行ったとしても輝くのは本人次第ということは理解できるが、進学率や雰囲気で流れることはある。
- ・ 市内の高校に学力が低い生徒が集まるという悪循環がある。
- ・ 教職員の資質向上が望まれる。
- ・ STEAM 探求で上げるしかない。そのためには、三田市や丹波市の子どもに進学してもらう以外に手はない。
- ・ 中高一貫校にしてはどうか。

## 2 学科について

### (1) 多くの学科、特色のある学科をもつ高校が望ましい。

- ・ 中学校を卒業する時点では将来を決めきれないので、総合学科の高校をつくり、1年の1学期はすべての学科でどういうことを学ぶかを学習し、1年の2学期からは学科にわかれて専門的に学べる高校が理想である。その学科は、農業や建築、工業、食品加工など、今後の丹波篠山市が活性化するのに必要な学科がよい。
- ・ 農業と関わることで、毎日食べないと生きていけないことを学び、食の大切さを学び、働くことの大切さも学ぶ。
- ・ “丹波篠山ならではの”を考えるなら、食の文化、農業、テクノロジーといったグローバルに特化した特色のある高校をつくれれば人は集まりやすい。
- ・ 英語や国際化に特化した学科ができ、海外留学なども経験できれば目玉になる。自国と海外の理解を深め、世界規模で考えられるようにする教育の導入も。
- ・ 農業/機械/電気の学科、学力重視（特進コース、スーパーサイエンスコース）、留学できる、安価な寮があるなど、魅力ある取組をしてほしい。
- ・ 就職希望の生徒に対し、高校生で取得できる免許（危険物取扱、簿記など）を取得できる職業専攻科や教員志望学科、医学医療志望学科、多文化共生学科など、他にないような学科を設置してはどうか。
- ・ 日本文化を守る職人の育成など、建築系の専門学校化することも一案である。
- ・ 有馬高校のように総合学科を設置する。
- ・ 単位制を取り入れ幅広く進路を選択できる環境を整えると魅力的である。
- ・ 部活にしても進学・就職にしても、実績のある高校に進学を希望する。すでに遅れてしまっている状況を取り戻すことはなかなか難しい。全国的にも珍しい進路コースを作り、また、地元密着型のサークル活動（地元の人と一緒に活動）のできる高校を目指すべきである。
- ・ 地域密着型の高校が、全国に1つあってもよいのではないか。
- ・ 通信でも授業が受けられるとよい。

## (2)途中で学科を変更できるようになればよい。

- ・ 現在のところ変更できないが、例えば普通科から職業科へ変更できれば柔軟性が増す。

# 3 部活動について

## (1)部活動を選ぶことができ、また、活動の充実が望まれる。

- ・ 中学校で活動してきた部活が高校にはない。また、満足のいく活動ができておらず、他市や私立に流れている。高いレベルで指導できるスタッフや指導体制を整える必要もある。
- ・ 三田の高校に行きたいという希望が多く、その子たちは、部活がしたいと言っている。
- ・ 市内3高校で1つの部活にするような方策を考えてはどうか。
- ・ 人数が少ないと試合もできない。合同チームも現実には難しい面がある。
- ・ 最低でも6学級以上は必要である。

## (2)ホッケー部を作ってほしい。

- ・ 丹波篠山市は、ホッケータウンに認定されている。
- ・ 産業高校のホッケー部がなくなり、ホッケーを頑張りたい子どもは市外へ行くしかない。ホッケー部を男子も女子も市内に復活させてほしい。
- ・ 近所にホッケーをしている子どもが多いが、天理大学といった私学に進学している。

## (3)食に関する取組も進めてほしい。

- ・ 「和食の甲子園」のように栄養や盛り付け、地元の食材を用いた大会を開催してみてもどうか。調理だけでなく、プレゼンや食材についても深く研究してみる。(三重の相可高校や北海道の三笠高校)

## (4)楽しくサークル活動ができるとよい。

- ・ 友達や先輩と楽しくサークル活動をしたいと言っている。

## (5)市内校では自分の力を発揮できる。

- ・ 市内校では人数が少ないため、1年生からレギュラーになれる。

## 4 通学について

### (1) 交通の便がよい。

- ・ 中学生と話をしていると、交通アクセス面を進学先選択のポイントに挙げている生徒が多い。
- ・ 大人が思う以上にシンプルであることが多く、自身の子どもは、「市内の高校は家から遠い」との理由だけで、市内校を選択肢から外した。
- ・ 勤めている保護者が多く、高校への送迎は難しい。
- ・ 交通の便は、選択肢の中で大きい。駅からの距離、自転車が必要なのか。車で送迎できる距離なのかといったことを考えている。交通の便が悪いことが理由で、市外の高校を選ぶ生徒もある。
- ・ 駅から遠い学校は、伝統校であっても人気がなくなっている。

### (2) 多様な通学方法を設けてほしい。

- ・ 阪神間から丹波篠山市内の高校への進学を考える子どももいる。最終的には通学を考えて断念している。直通バスや増便などにより進路選択の1つと考えられるようになる。宝塚では最寄り駅から高校まで、登下校時にはピストン運行している。
- ・ バイク通学を認めてほしい。
- ・ ウキウキする通学となるよう、無人駅を学習の場として活用、地域の集会所を寄り道できる場として活用しては。

## 5 選ばれる雰囲気などについて

### (1) 活気がある。

- ・ 文武両道が理想である。カリキュラムの実施と合わせて部活動が活発な学校は魅力的である。
- ・ 熱くて面白い、部活に熱心といった先生がおられる学校。

### (2) 自身を成長させることができる。

- ・ 3年間どれだけ頑張れるかということも、大人になってから大事である。
- ・ 将来役に立つ、自分を活かせる、大学で学ぶようなことを研究できる。
- ・ 修学旅行が海外である。

### (3) 制服のセンスなどがよい。

- ・ 娘を見ていると、部活だけではなく制服も見ているようである。

- ・ 夏、冬で選択できる。
- ・ 男女関係なく、ジェンダーレスな制服

#### **(4) 校舎がきれいである。**

- ・ きれいな空間（フリースペース）が多い。トイレは絶対にきれいに。

#### **(5) 公平、平等、インクルージョン（異なる立場や考え方を持つすべての人が、平等に参画し、それぞれが能力を発揮できる）を学校が理解している。**

- ・ 違いを認める、違いがあっても当たり前との価値観を。

## **6 市内校の良さについて**

#### **(1) 市内校も魅力的である。**

- ・ 地域密着型、専門性の高い教育、新たに STEAM 探求科設置などに取り組んでいる。
- ・ オープンハイスクールがおもしろかった。

#### **(2) 市内校の良さを発信してくれる子どもを増やしてほしい。**

- ・ 親や大人の見解よりも、子ども同士が SNS やスマホで情報交換している。
- ・ イベントなど、楽しいことを子ども自身から発信する。

#### **(3) 丹波篠山市の良さを知ることによって市内校を希望する子どももいる。**

- ・ 初めは友人が行くからとの理由で三田市の高校を希望していたが、丹波篠山市の良さを知っていくうちに、市内校を希望するようになった。

## **7 地域との連携について**

#### **(1) 地域文化の継承や地域と連携した取組を行ってほしい。**

- ・ 地域資源を活用して、地域を支える人材を育成してほしい。

## 8 経済面について

### (1) 保護者の負担を考えると市内校がよい。

- ・ 高校進学の場合は親の負担もある。通学の負担もあるため、地域の学校に進学するのがよい。

### (2) 金銭的な助成があるとよい。

- ・ 学校から海外へ行く事業があり、多くの生徒から問い合わせがあったようだが、実際に参加した生徒は数名だった。海外へ行く費用の補助制度があるとよい。
- ・ 高校が無償化されるとしたら、高校も義務教育でもよいのではないか。

## 9 望ましい高校の数について

### (1) 3校とも存続させるのがよい。

- ・ 3校それぞれが魅力ある地域に根付いた特色ある教育を行っており、3校存続していくことが望ましい。
- ・ 篠山東雲高校を他校と統合すれば、小規模で学びたい子や農業をがんばりたい子の願いは打ち消されてしまう
- ・ 篠山東雲高校のように小規模だから通いたいという生徒もいる。
- ・ さらに魅力ある高校づくりを進め、3校を存続させることはできないか。
- ・ 篠山東雲高校をオーガニック有機農業に特化してはどうか。
- ・ 母校に対する愛情から考えると、存続させるのが適正だと考えている。
- ・ 篠山東雲高校は、不登校対策が充実している。
- ・ 篠山東雲高校は統合するが、分校として残してはどうか。

### (2) 2校に統合するのがよい。

- ・ 出生数から考えると、将来的には1校。しかし、容易に新しい校舎を建築できないし、周到な準備も必要なので、当面は2校とし、それぞれの充実を図る。
- ・ 職業科は実習で広大な施設が必要なため、同系統で統合するのがよい。
- ・ もともと、篠山東雲高校は、篠山産業高校の分校だった。
- ・ 産業高校と東雲高校の統合は仕方ないとして、その後、1校に統合されないよう、鳳鳴高校の存続のために策を立てるべきである。
- ・ STEAM 学科など鳳鳴高校が取り組んでいることの評価は、早くても3年後にならないと出ない。普通校と職業校の両方が存在して、それらを活かすことを当面やるべきではないか。
- ・ 鳳鳴高校と産業高校の2校に統合し、産業高校に東雲高校の農業科を設置する。

- ・ 篠山鳳鳴高校を篠山産業高校へ統合し、篠山東雲高校は新高校のキャンパス高校としてはどうか。
- ・ 生徒の少ない高校が押しなべて悪い結果になっているのだとしたら、まず丹有地区で生徒の少ない高校から減らすべきである。
- ・ 市内に1校しかないのは選択肢がなく、子どもたちが人生の節目でいろいろと考えたり、悩んだりする機会が失われそうである。
- ・ 廃校を学生寮として活用できないか。

### (3) 1校に統合するのがよい。

- ・ 2校に統合したとしても、何年か後には同様の問題が生じることが目に見えている。将来を見据えて、3校の特色は残しつつ、1つの総合学校に統合し、勉強・部活・ボランティア・地域活動ができ、活気があって魅力ある学校をめざしていくべきである。
- ・ 子どもの数を考えると、市内3高校を1つに統合し、あらゆることが学べる高校に統合せざるを得ないと考えている。統合校において普通科（あるいは特進科）と職業科の2学科を設け、単位制総合学科とする。
- ・ 1校に統合して、部活動を選択できるようにしてほしい。
- ・ 1校に統合して、教職員を多く配置するのがよい。
- ・ 1校に統合するにあたっては、立地や通学面に配慮する。
- ・ JR篠山口駅西口に新たな学校を建設する。新しい校舎が駅の近くにあれば、生徒も集まる。
- ・ 農工団地の土地を活用すればよいのではないか。
- ・ 残る高校と消える高校があると心が痛むので、新設校を1校設けるのがよい。
- ・ 3校が統合することで多様な学びのコースを持ち、成績だけで線引きされない多様な生徒が交流する高校となる可能性がある。
- ・ 市内で1校になるので、高校間の格差はなくなる。

#### < 1校へ統合する場合に懸念されること >

- ・ 通学距離が長くなる生徒がでてくるので、通学への配慮が必要になる。
- ・ 高校がなくなった地域は、過疎化が進展するのではないか。
- ・ 市外からの生徒が増えると、市内の子どもが入学できなくなるのではないか。
- ・ 1校にまとめると、生徒数が多すぎて溶け込めない子どもが出てくるかもしれない。オンライン授業などの配慮も考えてほしい。
- ・ 1校に統合すると偏差値がまぎってしまい、勉強したい子どもは市外へ出て行ってしまうのではないか。
- ・ 1校に統合するが、学校は建てられないとなった場合はどうするのか。既存校を使うなら、本当に人が来るのか。
- ・ 1校に統合したら生徒が増える、という確証がない。

※学校数についての意見の数（市内高等学校在り方検討会会議録上）

項目	統合	3校存続	計
統合または存続に係る意見数	45	8	53

内 訳	1校に 統合	2校に 統合	3校を 存続	
市内高等学校在り方検討会（3分科会）	13	9	2	24
市内5中学校区での意見交換会 （タウンミーティング）	9	2	3	14
丹波篠山市PTA協議会新旧会長懇談会	6	6	3	15
計	28	17	8	53

## 10 1校に統合する場合の具体的な方法について

※ 市内高等学校在り方検討会では1校に統合との意見が多かったため、市役所職員で構成するプロジェクトチームで具体的な統合案を検討した。プロジェクトチームが提案する「犬飼・初田農工団地で新築する」、「篠山産業高校を統合校とする」、「篠山鳳鳴高校を統合校とする」の3案などについていただいた意見は、次のとおりである。

### (1) 犬飼・初田農工団地で新築する案

- ・ 高校が遠くなる地域も出てくるが、子どものためなら仕方がない。
- ・ 駅の近くで農業などの学科もあれば、良い高校になると思う。
- ・ 産業高校に通っていたが、駅から自転車で20分以上かかるので、今思えば大変だった。新築案は、通学の便がよいと思う。
- ・ 「駅近くまで通学するぐらいなら、いっそうのこと電車で市外校へ行こう」と考え、逆に流出する子どもが出てくるのではないか。
- ・ 東部の過疎化が一層進んでしまうのではないか。
- ・ 災害時のことを考えると、少しでも人が集まっているところで安全を確保したい。

### (2) 篠山産業高校を統合校とする案

- ・ 費用を考えると既存施設の活用が現実的ではないか。産業高校なら機械類の移動費用もかからない。
- ・ 農工団地の土地を取得するのなら、産業高校の隣接地を購入して敷地拡大する方法も考えられるのではないか。
- ・ 兵庫県篠山総合庁舎跡に普通科棟を建設しては。

### (3) 篠山鳳鳴高校を統合校とする案

- ・ 近隣の山を取得して敷地拡大すれば、より丹波篠山らしい高校ができると思う。

## 11 その他

- ・ 1校に統合した場合、三田市と丹波市では統合する必要がなくなるか。統合校数のすべてを丹波篠山市で引き受ける必要があるのか。
- ・ 令和10年度に統合となる計画だが、施設整備は間に合うのか。
- ・ 統合後の跡地活用はどうか。
- ・ 青山藩の古文書（青山文庫）が、青山歴史村と鳳鳴高校に保存されている。統合にあたっては、学問的文化も守ってほしい。
- ・ 高校教育で地域を担う農業をどうするか。農業は外せない。地域をあげて市立高校にする。
- ・ 篠山東雲高校を神戸大学（農学部）付属高校化してはどうか。
- ・ 長い歴史があり、鳳鳴の名前は残してほしい。
- ・ 丹波篠山の給食はおいしいと評判であり、高校に給食を導入してはどうか。
- ・ 篠山東雲高校を統合する場合には、飼育している動物のストレスにならないよう進めてほしい。
- ・ 三田市の高校へ通っている生徒の中には、通学に疲れている生徒もいる。地元に通えるメリットを生かすべき。
- ・ 丹波篠山の食材を用いた料理やスイーツを丹波焼の器に盛り、市民や観光客へ提供する高校レストラン事業を導入してはどうか。
- ・ 高校の問題は、小中学校の教育に課題があるという視点を持つべきである。小中学校の教育が地域とさらに繋がれば、高校は自ずと地元志向になる。
- ・ 育成したい生徒像をめざし、効果的なカリキュラムを実施できるよう、小中高の一貫教育を。